

# 特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク

## 2021年度事業計画書

期間:2021年4月1日~2022年3月31日

ビジョン ー目指す社会像ー

それぞれの強みや違いを活かし、繋がり合い、主体的に未来を創る行動に溢れるいきいきとした社会

ミッション ー社会的使命ー

若者の力を活かして、地域の課題解決活性化を加速する

若者の力を活かして  
地域の活性化/課題解決を  
加速する

Tochigi  
Youth  
Supporters  
Network\*

実施団体・問合せ

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク

〒320-0862 栃木県宇都宮市西原1-3-4  
TEL 028-612-1575 FAX 028-612-1585  
E-mail: [office@tochigiapp.net](mailto:office@tochigiapp.net)

ミッション: 「若者の力を活かして、地域の課題解決 / 活性化を加速する」 の実現

中期ビジョン・計画  
(2025アジェンダ)  
理事・スタッフ・会員で策定  
2020~2021

経営会議  
支援プログラム開発会議  
(運営/賛助会員、スタッフ、チャレンジ会員)

**挑戦者×地域コーディネータ×サポーターコミュニティ**  
⇒ 相互扶助、自立型連携、未来への事業の仕込み・共同戦線(協業)  
⇒ 挑戦が持続・循環する生態系の実現

社会的価値(地域の希望)を 創り出す若者・組織・地域	地域コーディネーター 支援者
-------------------------------	-------------------

自律共生型地域づくり支援  
リアルコミュニティとしての自律共生型  
(連帯経済と地域家族の暮らし)の各地化支援  
2022~2025 仕組化安定化(現在まだまだ)

**プログラム開発・運営事業**  
“地域若者コーディネート”  
若者への成長機会・関心拡大提供、組織変化支援、活動支援金の創設・運営未)

IDEANEXT

ユース	←	プログラム運営、伴走	→	組織/地域ニーズ
-----	---	------------	---	----------

2010~2017 仕組化・安定化  
2017~ 拡大・進(深)化

**地域×若者情報プラットフォーム**  
若者と栃木のヒト・コト・モノ・シゴトをつなぐ“あしかもメディア。”

- ・栃木の魅力的なヒト・コト・モノ・シゴトの取材発信
- ・地域キーマンによるコラム
- ・動画

2020~2023 仕組化・安定化  
2023~2030 継続発展

**地域拠点運営事業**  
“エリアマネジメント”

- ・地域現場レベルでの課題解決、起業家エリア定着
- ・空家×起業家×定着支援(地域内通訳)
- ・ゲストハウス(中長期滞在拠点)

2019~2022 仕組化、安定化(現在まだまだ)  
2022~2030 継続発展

ユースチャレンジ基金(社会活動奨学金)  
寄付  
支援効果の実感  
会員/寄付者/支援者  
情報共有

若者が求める社会像と価値観の把握 2020~2021

意欲がある若者 / “探している”若者  
県外関係人口含む

参加  
発信  
参加  
発信

組織 地域住民  
地域コーディネーター

アイデア/SOS  
発信依頼

各地で活躍

現場参画  
拠点設置

参画

発信  
ユース開発外機会提供

他地域への地域拠点運営支援

## 1.2020~2022年度基本方針(2020.6総会承認)について

### (1)基本方針(2020~2022)

アフターコロナ社会に適応するチームの在り方(社会に果たす役割、意義、事業、ビジョン、プロセス)の見直しと再構築を行い、上記の取り組むべき課題に対してアクションの実現と加速をする。

### 2) 取り組むべき課題(2020~2022)

#### ① 新型コロナウイルスの影響による「新たな社会像」や「次世代を担う若者・学生の価値観」の変化に即した、ユースミッション

アクションの実現に向けた事業やスキームの見直し・再構築する。特に、若者・学生が描く求める「未来の社会の姿」を丁寧に

捉え、その若者の求めを中心に据えた事業スキームを変容していく。

#### ② 地域間の人材還流の仕組みとネットワーク、実用性の整備

#### ③ 若者の生活の安定と社会活動参画しやすい環境の整備

#### ④ 「地域組織」の機能・組織の変革・介入の不足、「地域組織」と若者のコーディネート不足、エリアマネジメント力ある人

材育成・支援

#### ⑤ 上記を実行していくための組織体制課題として、社内人材育成強化、ガバナンス・組織基盤の再構築

### (3)現在取り巻く外部環境の認識について

#### ①新型コロナウイルスと5Gによるパラダイムシフトへの適応

#### ②「地域プログラム」をつくりだす人材が各地に広がりつつあり、参加者・担い手の掘り起こしが必要。

#### ③若者の経済的生活基盤の弱体化

#### ④「地域疲労」の進行

### (4)組織内の内部環境の認識について

#### ①事務局スタッフの若年化が進み、若者・学生により近い心理的距離間と価値観・感覚で業務を推進できる。

## (5)重点事業(2020~2022)

①コロナ禍の影響を踏まえ、これからの若者が求める社会像や機会、価値観を丁寧に紡ぎ、広く社会に発信しながら、中期計画の策定を行う。またそれらの未来像に即した、必要な人物像の設定と育む力の要素設定し必要な新たな支援プログラム開発を行う。また声を聞くだけでなく若者同士がこれからの未来や社会を議論していく場づくりを積極的に進めていく。

②社会環境に適したユース事業(「地域×若者コーディネート」に加えて「情報プラットフォーム」、「地域拠点運営とエリアマネジメント」の実行と連動)の再構築

③各地の「地域プログラム」への参加者のコーディネートと「地域コーディネーター」との連携検討(連携効果予測、連携の具体的方法)

④若者の社会参加しやすい仕組み・仕掛けの検討

⑤地域拠点を基軸にしたエリアマネジメント、コーディネートの実施

⑥社内の若手スタッフの人材育成、ガバナンスと組織基盤の再構築

## (6)重点事業(2020~2022)の進捗評価と2021年度の実施方針

①コロナ禍の影響を踏まえ、これからの若者が求める社会像や機会、価値観を丁寧に紡ぎ、広く社会に発信しながら、中期計画の策定を行う。またそれらの未来像に即した、必要な人物像の設定と育む力の要素設定し必要な新たな支援プログラム開発を行う。また声を聞くだけでなく若者同士がこれからの未来や社会を議論していく場づくりを積極的に進めていく。

▶(2020年度評価)学生のコロナ禍のアンケートの実施では、学生に孤立、経済的困窮、将来(就職)不安が明らかになった一方、学生のインタビュー事業では、大事にしている価値観や将来のイメージなどを等身大の声を紡ぐことができた。スタッフの若返りとインターン生の合流により、学生との距離感を近づけることができた。直接的に若者の声を把握できる独自性は創出できたものの、これらの声から育むべき人材像へ展開し、必要な支援策を考えていくことには着手できなかった。また若者たち同士、多世代が関わり合う機会については、焚火ダイアログやYOUTH TIMEなどを実施した。新しい出会いもあったが、コロナの影響か、aretまで来てもらうことがハードルなのか、参加人数は少なかった。

## ②社会環境に適したユース事業(「地域×若者コーディネート」に加えて「情報プラットフォーム」、「地域拠点運営とエリアマネジメント」の実行と連動)の再構築

▶(2020年度評価) 情報プラットフォーム機能としての「若者と栃木の魅力的なヒト・コト・モノ・シゴトをつないでいく地域メディア」をコンセプトとした「あしかもメディア」の開設を行った(11月)。また地域拠点と位置付けるコワーキングスペースaretの運営から周辺自治会と大学等の連携事業を展開したほか、空き家を活用し、南宇都宮で学生と地域がつながるシェアハウス「YOUTH HOUSE」を開設した(3月)。こうした新たな機能により、aretが当会また地域と関わる学生・若者の入り口や相互に高め合う機能を有し、WEBメディアで一步踏み出す手前の学生へもリーチし、YOUTHHOUSEで生活基盤のサポートや地域住民と関わり合う現場ができ、ミニマムの仕組みを連動させ、動きだすことができた。

▶▶(2021年度への方針)aret,あしかも、YOUTHHOUSEそれぞれの運営の安定化と機能化を高めていくことに加え、「宇都宮空き家会議」等とも連携し、広く空き家を地域利用していけるように、大家さん、また地域の自治会などとも連携し、地域の中に若者が入っていける流れを加速していきたい。

▶▶▶(2021年度の重点アクション) 地域×若者のシェアハウス事業「YOUTHHOUSE」(南宇都宮)の機能化と単独黒字化。あしかもメディアの機能化と収益化。

## ③各地の「地域プログラム」への参加者のコーディネートと「地域コーディネーター」との連携検討(連携効果予測、連携の具体的方法)

▶(2020年度評価)下野市の公民連携事業やグリーンツーリズム実施団体のネットワーク型組織の再構築など、県内の地域づくりのコーディネーターの育成やネットワーク化を図る事業に取り組んだ。宇都宮市に限らず、各地域のコーディネーターや仕掛け人の顔が見えたが、連絡の具体策や調整については、次年度以降の展開としたい。イメージとしては、「あしかも。」の認知拡大とアクセス数の増加ができれば、各地域コーディネーターのしかけを若者に届けることができ、宇都宮市に集中しがちな学生・若者を他地域につなげていくことが考えらる。

▶▶(2021年度方針)各地域のコーディネーターの仕掛けに市町の境界線を越えて参画する人の動きを起こしていく。また県内のコーディネーターが双方に高め合う、創発していく関係構築を展開していく。

▶▶▶(2021年度の重点アクション)各地の地域コーディネーターと連携した事業の実施

#### ④若者の社会参加しやすい仕組み・仕掛けの検討

▶(2020年度評価) プログラムの開発・実施だけでは届かなかった若者たちの参画へは、参加の手前に自分のペースと時間でインプットができるWEBメディア「あしかも。」を通じた地域理解を促す仕組みを作った。また社会貢献意欲の前に、安心した暮らしを確保するニーズもわかり、シェアハウス事業もスタートした。こちらの学生への願望での事業ではなく、彼らの求めていることかつ社会的環境が足りていないことをゼロベースで考え、彼らが人と関わることの面白さや安心、自己成長が感じられるように、新たな参画するしかけを創出していく。

▶▶(2021年度方針)「あしかもメディア」、「ユースハウス」の安定化と機能化に加え、若者の新たなニーズに応えていくプログラムの開発の他、前に進もうとする若者たちへ“やってみる”ことができる資金提供ができる社会活動奨学金の創設と運営の準備を実施する。また、スタッフが日常的に取り組む事業運営の中に、高校生や大学生などが積極的に関わる(連れていく)仕組みの他、若手スタッフの視点を基にして自主事業化を進め、社内の人材成長も進めていく。

▶▶▶(2021年度の重点アクション) iDEA→NEXTクラウドファンディングの目標達成、社会活動奨学金についての検討、若者がプログラムに参加してやすい仕組み(Instagramを活用した発信、短期インターン、取材・現場同行)の試験実施。

#### ⑤地域拠点を基軸にしたエリアマネジメント、コーディネートの実施

▶(2020年度評価)地域拠点aretの運営においては、コロナの影響もあり、緊急事態宣言や3密の回避などもあり、積極的に新規の利用を呼び掛けることができなかった。wifi環境や撮影配信機材のおかげもあり、オンラインでのプログラムへの切り替え、対面だけでなくコミュニケーションやプログラム展開を行った。特に、iDEA→NEXTのファイナルプレゼンテーション等をオンラインでの対応するなど、地域拠点の活用のされ方が対面想定からオンライン対応できるように対応することができた。また自治会に若者が参画していく自治会活性化事業や起業家の事業発表やメンタリングなど、aretから新たな関りが生まれる仕掛けも実施した。

▶▶(2021年度方針)aretから地域につながっていくように、地域の企業、自治会、学校等とも連携し、地域内課題と若者が繋がり解決また変化を起こしていくコーディネートを実施していく。

▶▶▶(2021年度の重点アクション)西地区(aret)、西原地区(aret)、宮原地区(YOUTHHOUSE)等の自治会、学校、企業、と大学・若者等と連携しながらの事業の実施。

## ⑥ 社内の若手スタッフの人材育成、ガバナンスと組織基盤の再構築

▶(2020年度評価)20代のスタッフと5名の長期インターン生が合流し、平均年齢26歳となり、組織の若返りが起きた。これまでは当会の継続に伴い、スタッフが30代、40代が中心となっており、若者たちとの感覚差や距離感などが掴めないという見えづらさ組織的リスクがあった。新スタッフ等の合流またaretの開設により、大学生等の若者と関わる機会が増え、ニーズや想いに起点を置いて事業の捉え方ができるようになった。一方で、クライアントからの要望等に期待値以上に応えていける業務を執行する力を社内で育む必要性が高まった。社内においては、執行理事が必ずスタッフの事業のサポートに入る体制を図り、OJTでの育成他、社員研修や社内コミュニケーションを図る機会などを実施した。その他、コロナ対応も踏まえ、リモートワークが可能な体制整備を行った。

課題としては、業務の執行や若者との関わり、事務局の強化を意識したが、理事会の開催や会員・寄付者とのコミュニケーション機会が少なくなりました。

▶▶(2021年度)多様な価値観を理解し、パートナーシップを組み、課題解決やミッションの実現に近づけていくコーディネート力をさらに高めていく観点でも、スタッフが理事また会員、寄付者とコミュニケーションを取りながら、これからあるべき姿やあるべき事業(支援)の理解を双方に描いていく機会を創出し、スタッフとクライアントだけでなく、みんなで「持続循環する生態系」を創っていく組織の在り方を実施していく。また、これまで長期的な課題であった「会員や支援者」とのコミュニケーションの充実についても、アンケートを実施しながらニーズに即した取り組みを開発実施していく。スタッフの人材育成全体においては若手スタッフと積極的に自主事業開発の行い、事業開発プロセスと調整力、事業効果等を実践的に育成していく。

▶▶▶(2021年度の重点アクション)理事・会員との「経営会議」(3か月に一度、2時間程度、対面・オンラインでのハイブリッド形式、予定)の実施。会員ニーズ把握するアクション(アンケート、交流会等)を実施。多様性ある理事構成と新理事の就任、理事会の複数回実施(年3回程度)。アドバイザリーボードの設置。社内規定の整備の検討。会員相互の情報共有グループの策定運用。

→全体として、組織的には、事業推進の重点を自主事業を育成強化し、業務委託比率が高い現在の財源割合を下げ自己資本を高める財政の健全化を図り、模索・検討・実施する。事業としては、これからの若者・社会を中心に据えたビジョンの打ち出し、議論、具現化の実践を行っていく。

## 優先順位 重要度×実現性

### <A:早急に実施、必達>

- ▶地域×若者のシェアハウス事業「YOUTHHOUSE」(南宇都宮)の機能化と単独黒字化。
- ▶あしかもメディアの機能化と収益化。 ※別途資料
- ▶iDEA→NEXTクラウドファンディングの目標(200万円)達成 ※別途資料
- ▶会員相互の情報共有グループの策定運用。 ※別途資料
- ▶理事・会員との「経営会議」(3か月に一度、2時間程度、対面・オンラインでのハイブリッド形式、予定)の実施。 ※別途資料
- ▶若者が参画しやすいプログラム設計と実施 (案;短時間、オンライン等での実施、インスタグラムでの情報発信)。
- ▶若者がプログラムに参加しやすい仕組み (インスタグラムを活用した発信、短期インターン、取材・現場同行)の試験実施。
- ▶会員・若者との「若者支援開発会議」(3か月に1度、1回2時間、対面・オンラインのハイブリッド形式、予定)の開催と支援策の試験実施。

### <B:年度内に必達>

- ▶あしかもメディアを通じて、若者の想いやアクションの可視化。
- ▶各地の地域コーディネーターと連携した事業の実施
- ▶会員ニーズ把握するアクション(アンケート、交流会等)を実施。
- ▶多様性ある理事構成と新理事の就任、理事会の複数回実施(年3回程度)。
- ▶アドバイザーボードの設置。

### <C:着手>

- ▶社会活動奨学金についての検討
- ▶西地区(aret)、西原地区(aret)、宮原地区(YOUTHHOUSE)等の自治会、学校、企業、と大学・若者等と連携しながらの事業の実施。
- ▶社内規定の整備の検討。

⇒若者、会員、寄付者、支援者、事業パートナー、スタッフ、みんなで創る「挑戦が持続・循環する生態系」づくりと 館員参加による組織ガバナンスと財政の健全化

ミッション:「若者の力を活かして、地域の課題解決 / 活性化を加速する」の実現

中期ビジョン・計画  
(2025アジェンダ)  
理事・スタッフ・会員で策定  
2020~2021

経営会議  
支援プログラム開発会議  
(運営/賛助会員、スタッフ、チャレンジ会員)

**挑戦者×地域コーディネータ×サポーターコミュニティ**  
⇒ 相互扶助、自立型連携、未来への事業の仕込み・共同戦線(協業)  
⇒ 挑戦が持続・循環する生態系の実現

社会的価値(地域の希望)を 創り出す若者・組織・地域	地域コーディネーター 支援者
-------------------------------	-------------------

自律共生型地域づくり支援  
リアルコミュニティとしての自律共生型  
(連帯経済と地域家族の暮らし)の各地化支援  
2022~2025 仕組化安定化(現在まだまだ)

**プログラム開発・運営事業**  
“地域若者コーディネート”  
若者への成長機会・関心拡大提供、組織変化支援、活動支援金の創設・運営未)

IDEANEXT

ユース	←	プログラム運営、伴走	→	組織/地域ニーズ
-----	---	------------	---	----------

2010~2017 仕組化・安定化  
2017~ 拡大・進(深)化

**地域×若者情報プラットフォーム**  
若者と栃木のヒト・コト・モノ・シゴトをつなぐ“あしかもメディア。”

- ・栃木の魅力的なヒト・コト・モノ・シゴトの取材発信
- ・地域キーマンによるコラム
- ・動画

2020~2023 仕組化・安定化  
2023~2030 継続発展

**地域拠点運営事業**  
“エリアマネジメント”

- ・地域現場レベルでの課題解決、起業家エリア定着
- ・空家×起業家×定着支援(地域内通訳)
- ・ゲストハウス(中長期滞在拠点)

2019~2022 仕組化、安定化(現在まだまだ)  
2022~2030 継続発展

ユースチャレンジ基金(社会活動奨学金)  
寄付  
支援効果の実感  
会員/寄付者/支援者  
情報共有

若者が求める社会像と価値観の把握 2020~2021

意欲がある若者 / “探している”若者  
県外関係人口含む

参加  
発信  
参加  
発信

組織 地域住民  
地域コーディネーター

アイデア/SOS  
発信依頼

各地で活躍

現場参画  
拠点設置

参画

発信  
ユース開発外機会提供

他地域への地域拠点運営支援

2. 2021年度事業計画 ①特定非営利活動に係る事業

事業の種類(定款)	事業プログラム	事業内容(案)	備考(1.実施日時、2.場所、3.事業パートナー)		受益対象者の範囲及び延人数	予算(収入)(千円)	
①社会事業を行う人材育成事業	実践型インターンシップ事業	実践型インターン「GENBA CHALLENGE」	若者の力を取り入れた組織変革の加速 企業の若者向け情報発信インターン	1.通年 2.企業 10社 3.受入企業等	継続 /自主事業	企業10社 大学生15名	4,000
		目白大学課題解決型インターンシップ	企業の経営課題に対して学生が分析・改善提 案をチームで行うインターンシップ	1.8月~2月 2.目白大学 3.目白大学	継続 /委託事業	企業2社 学生15名	340
		ワークライフシナジーインターン	仕事と家庭、双方の充実と相乗効果を図り、「働 きつづける」ライフデザインと仕事の価値観情勢 を図るプログラム	1.7月~3月 2.宇都宮市内 3.宇都宮市男女共同参 画課、株式会社ワークエントリー	継続 /委託事業	企業6社 学生60名	1,400
		ろまんちっく村SDGsインターン	ろまんちっく村のSDGs化を推進していくイン ターンシップ。宇都宮大学重田ゼミとも連携	1.5月~2月 2.ろまんちっく村、宇都宮大学 3.ろまん ちっく村、宇都宮大学重田ゼミ	新規 /自主事業	学生10名	400
	起業・創業ネット ワーク事業	ソーシャルグッドスタートアップ プログラム「IDEA→NEXT」	ブラッシュアップ合宿 ファイナルプレゼンテーション	1.通年 2.栃木県内 3.協賛企業等	継続 /自主事業	10組	2,000
		創業プロデューサー事業	起業希望者が集うエリアづくりと創業支援	1.通年 2.栃木県内 3.栃木県経営支援課、産業振興 センター	継続 /委託事業	起業志向の 若者100名	3,562
		課題解決型人材養成	起業初期者の伴走支援事業	1.通年 2.栃木県内 3.栃木県経営支援課、株式会社 WE	新規 /委託事業	起業初期人 材100名	1,100
	地域の担い 手育成事業	地域の担い手育成事業	地域づくり人材育成	1.通年 2.栃木県 3.栃木県地域振興課	継続 /委託事業	300名	3,960
	若者人材育成	下野市 関係人口創出事業	地域コーディネーターの育成および中間支援組 織の立ち上げ	1.通年 2.下野市・東京圏	継続 /委託事業	50名	6,000
		下野市 公共施設公民連携 推進事業	公民連携事業の開発運営	1.通年 2.下野市	新規 /委託事業	100名	7,000
		企業向け人材育成事業	宇大未来塾「とちぎ志士プログラム」 「次世代経営マネジメントプログラム」	1.通年(5月~2月) 2.栃木県内 3.宇都宮大学	継続 /業務委託	20~30代 リーダー候 補 60人	4,500
		ユースハウス運営事業	大学生のシェアハウスと地域と大学生が関 わる地域拠点運営	1.通年(4月~3月) 2.宇都宮市弥生町	新規 /自主事業	延べ200名	1,000

事業の種類(定款)	事業プログラム	事業内容(案)	備考(1.実施日時、2.場所、3.事業パートナー)		受益対象者の 範囲及び延人 数	予算 (収入) (千円)
②ソーシャルプロジェクト支援事業	とちぎグリーンツーリズムネットワーク活性化事業	グリーンツーリズム実行団体、支援団体、関連期間のネットワーク化と機能化	1. 7月~3月 2. 栃木県内 3. 栃木県農村振興課	継続 /委託事業	GT関連団体 80組	2,375
	宇都宮空き家会議	空き家の利活用が進むマッチング、人材育成の仕組みの開発と運営	1. 4月~3月 2. 宇都宮市内 3. 宇都宮空き家会議	継続 /委託事業	10名	215
③ネットワーク/コミュニティ形成事業	地域拠点の活用・運営	aretの運営による日常的挑戦者支援	1. 通年 2. aret(宇都宮市西地区) 3. 光琳寺	継続 /自主事業	200名	840
	YOUTH TIME他、会員交流	学生×地域の未来議論、会員交流、若者支援策開発会議	1. 隔月 6回 2. 宇都宮市内 3. 会員	継続 /自主事業	60名	550
⑤挑戦する若者を支える奨学金事業	ホンデチャレンジ	読まなくなった古本を寄付して若者を育む仕組み	1. 通年 2. 全国 3. バリューブックス	継続 /自主事業	40名	300
⑦調査研究事業						
⑧情報発信/出版事業	情報発信	WEBサイト、SNS(FACEBOOK, Twitter, LINE@)、ソーシャルニュースの管理運営。	1. 通年	継続 /自主事業	—	300
	あしかも。メディアの運営		1. 通年	継続 /自主事業		2,000

**5.運営体制** 理事:9名(岩井理事(代表)、塚本理事(副代表)、古河理事、大塚理事、小久保理事、金井理事、野崎理事、清嶋理事、中野理事)監事:1名(安藤監事)  
職員:8名、うち常勤4名(岩井、皆川、正木、中山) 非常勤4名(古河/週3 森谷/週4 門間/週2 篠原/週1.5)  
うち事業推進6名(常勤3、非常勤3)、事務総務2名(常勤1、非常勤1)

## ▶あしかもメディアの機能化と収益化イメージ

### 企業ニーズ・課題

若者にどう届けばいいかわからない。  
若者から見て魅力があるかわからない。

### 若者ニーズ・課題

会社説明会での言葉を信じ切れない。働いて  
る現場、雰囲気、社員の様子が知りたい。いろ  
んな会社、仕事を知りたい。

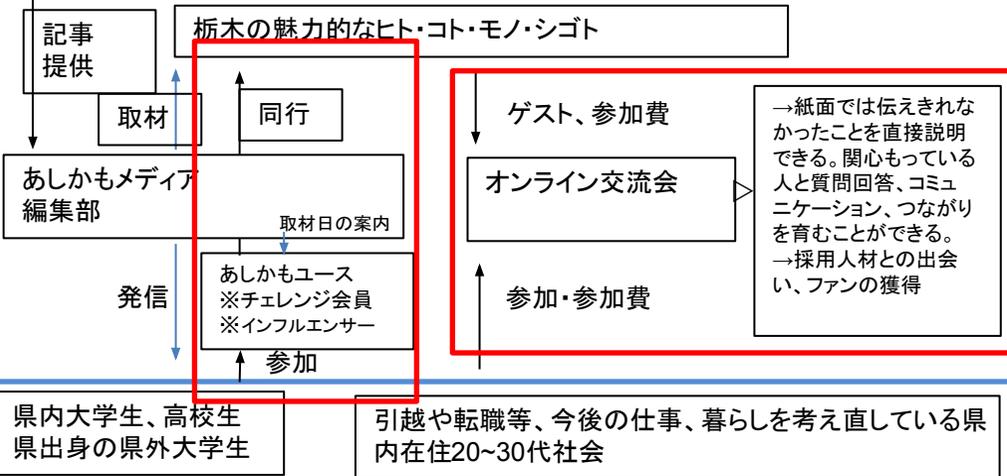
### 変化・価値・ゴール

・企業の日常を経験してもらい、大学生  
から捉える自社の魅力、強みを発信し、  
自信をもって情報発信できる。あしかも  
を通じて、企業のリアルな魅力発信と求  
人をする事ができる。  
・貢献したいと思える仕事と出会う

一週間実践型取材インターン: 大学生が会社の中に入り、企業の魅力の発見、企業へ発表、あしかもメディアで発信。

<実践型インターン事業モデル。実践型インターンのパッケージ化

※受入企業から費用を頂き、若者への情報提供課題解決への価値の提供



## ▶iDEA→NEXTクラウドファンディングの目標 (200万円)達成

## ご挨拶

はじめまして！

私たちは栃木県をフィールドに活動するNPO法人

『とちぎユースサポーターズネットワーク』です。

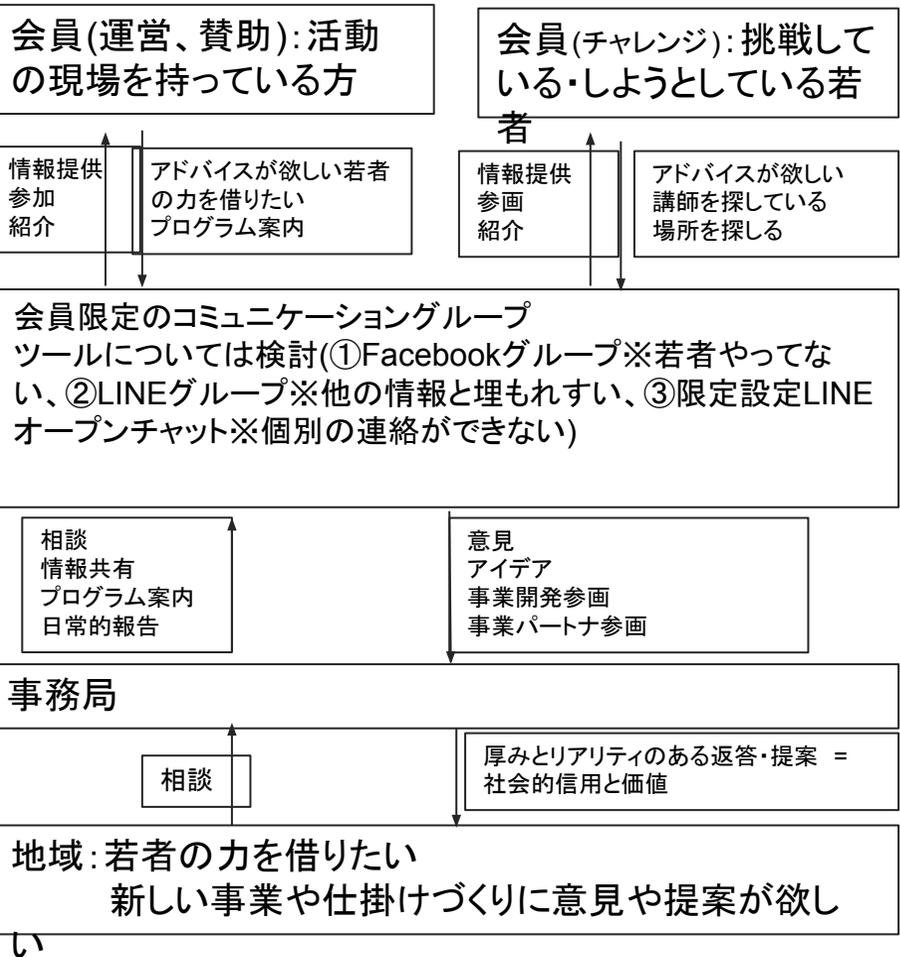


2008年に当団体を立ち上げ、2010年に法人化をし、これまで「若者の力を活かし、地域の課題解決/活性化を加速させる」ことを目的に県内の教育機関や行政、地域作りに関わる様々な人々と一緒に、若者の活躍機会の拡大に向けて挑戦を続けて参りました。

リターンを選ぶ

▶会員相互の情報共有グループの策定運用イメージ

- ▶理事・会員との「経営会議」の実施イメージ。
- ▶会員・若者との「若者支援開発会議」開催と支援策の試験実施イメージ。



**経営会議**  
概要:四半期の会計決算に合わせて、取り組みの進捗情報報告、財政状況の報告、事務局で抱えている課題の提起を行い、会員、理事、スタッフから意見を頂き、現場の運営に反映し、会員参加によるミッションの実現にむけて経営改善、経営の安定化を目的とする。  
頻度・方法:3か月に1度、1回2時間、対面・オンラインのハイブリッド形式  
開催:10月中旬、1月下旬、4月中旬 平日19:00~21:00を予定

**若者支援開発会議**  
概要:若者(自由、会員限定なし)と会員が集い、若者の取り組みや課題を共有しながら、必要な支援策について検討し、若者事業加速と新たな支援策、仕掛けるべき社会環境づくりを進めることを目的と実施する。  
・<前半:若者チャレンジ事例発表50分>チャレンジ中の若者の取組を5分(取り組みと課題)で発表し、会員からの質問やフィードバック30分)を行い、若者の取り組みを支える。  
・<後半:若者を交えて、支援策の検討60分>  
会員からの提起もあるが、事務局からも議題を提案する。具体的には、「若者の経済状況と社会活動奨学金の創設の検討」、「デジタルネイティブ世代に対するプログラム提供の変化」など。  
頻度・方法:3か月に1度、1回2時間、対面・オンラインのハイブリッド形式  
開催:9月中旬、12月下旬、3月中旬 平日19:00~21:00を予定

⇒若者、会員、寄付者、支援者、事業パートナー、スタッフ、みんなで創る「挑戦が持続・循環する生態系」づくりと、館員参加による組織ガバナンスと財政の健全化



# 組織体制(案)・新役員/職員

役員任期(2021.6~2023.6、更新有)

理事	岩井 俊宗	前年度現代表理事
理事	塚本 竜也	前年度副代表理事 NPO法人トチギ環境未来基地 理事長
理事	古河 大輔	一般社団法人カゼトツチ 代表理事
理事	大塚 雅斗	株式会社キッズコーポレーション 代表取締役
理事	小久保 行雄	有限会社ドンカメ 代表取締役)
理事	中野 謙作	一般社団法人栃木県若年者支援機構 理事長
理事	金井 光一	NPO法人チャレンジド・コミュニティ 代表理事
理事	清嶋 磨利夫	株式会社キップルネットワーク 代表取締役
理事	野崎 千晶	株式会社ワークエントリー 栃木事業部宇都宮営業所所長
監事	安藤 正知	NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事長

新任理事	濱野 将行	一般社団法人えんがお 代表理事 ※ IDEANEXT卒業生
新任理事	皆川 美咲	事務局職員
新任理事	山下 典江	中小企業診断士 専門分野:人材財育成・組織づくり 創業支援 経営支援 着地型観光旅行業支援 ソーシャルビジネス NPO法人支援

新任監事 山田 仁浩 フィネスコ株式会社 代表取締役社長 ※認定経営革新等支援機関

事務局 岩井俊宗(週5)、古河大輔(週3日)、皆川美咲(週5)、正木健(週5日)、  
中山裕樹(週5)、森谷真依(週4)、門間大樹(週2)、篠原悠太(週2日)

長期インターン生 大久保怜(東京学芸大2年)、白金怜励(宇都宮大学3年)、須賀未樹(宇都宮共和4年)、  
阿部こなみ(独協大学4年)、鈴木千夏(宇都宮大学1年)、





# 以下、参考資料

(前年度2020年度総会資料)

# 全体新事業スキーム案(2019.6.1～ )

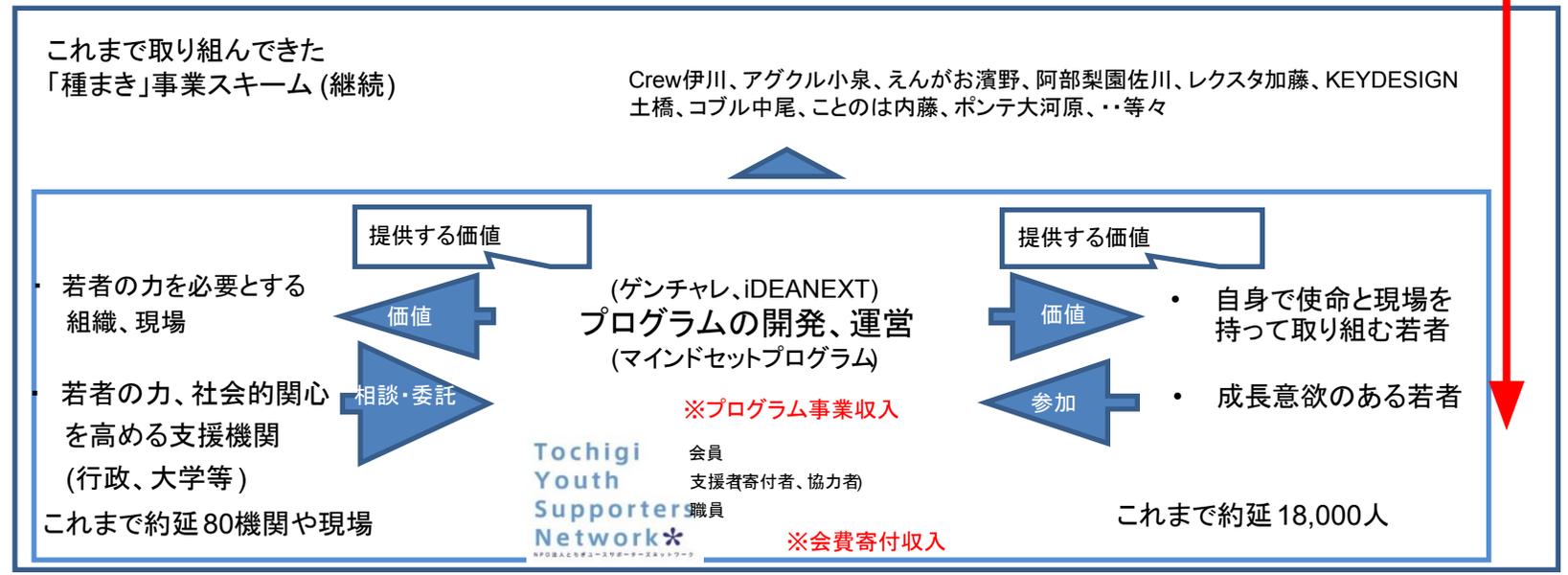
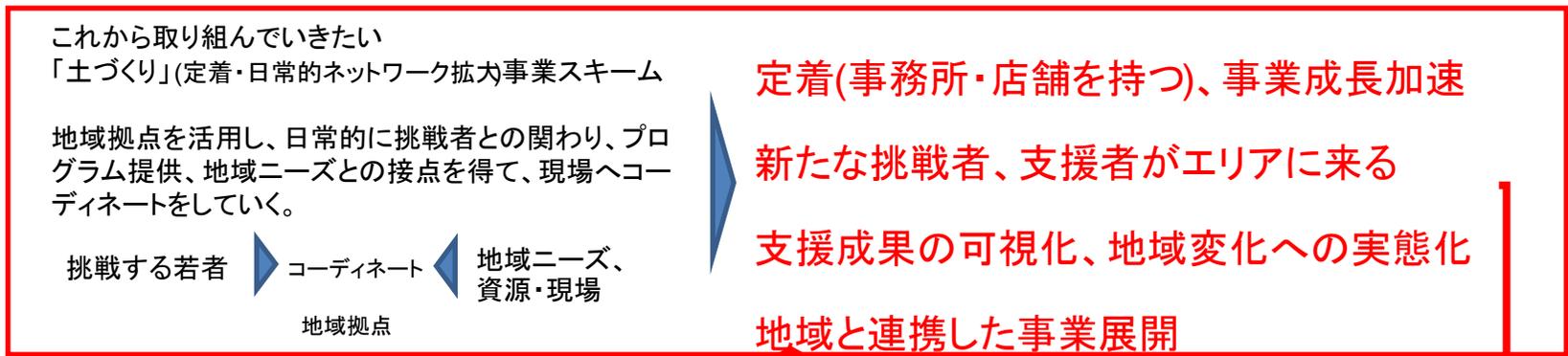
Mission 若者の力を活かして地域の活性化、課題解決を加速する  
 Vision 挑戦が生まれ、育まれる循環する生態系をつくる。

要協議・検討

中期vision 案1 新しいコトが起きるエリアを創造する。  
案2 ユースの支援モデルの他チーム展開する。(現場を持ったコーディネート機関の成長支援)

## 若者を活かして地域の活性化解決を加速する

ユースネットワークを地域に活かし、課題解決の実践と挑戦者が育まれあう日常の景色をつくる。



新たな挑戦者、支援者の掘り起こし

2019.4.16

## ▼光琳寺井上さん意図(岩井の理解、4/13井上さん同意)

- お寺の地域の拠所としての原点回帰。地域(住民、檀家)への深い安心の提供したい。
- お寺、また住職として人の生き死に、また生き方に関わる故、よりよく生きて欲しい願いととも、よりよく生きていける社会環境を作り出したい。
- さらに、地域の未来を光照らす創造を生み出す機能を持った新しいお寺の機能・役割の再定義(ソーシャルイノベーションの孵化機能)したい
- 檀家を始めとして、光琳寺のある西、西原地区が高齢者も多いことから、高齢者の活躍・役割を支えられる役割を担いたい
- 井上さん自身の持つ、マインドフルネス他の人材育成プログラムや提供先となる大手企業人材、またキー局メディアとの人的ネットワークを地元を活かしたい。

- ## ▼共通点→
1. 人との関わり、関係性が生まれ、育まれる。その関係性により、安心や希望が生まれる新しさが育つ空間
  2. これからの未来と社会に対して、命をより輝かせる使い方ができるような人を育みたい。
  3. 人づくり、まちづくりの拠点

## ▼コアコンセプト案 ※内々で共有。打ち出さない。言葉が重いので。

再定義(今までの常識を疑い、本質を捉え、意味づけをし直す)、暮らし・生き方の見直し、地域の変化促進、化学反応を促進する触媒、ソーシャル・キャピタル、→**常識を疑い意味を問い直し生まれる、新しい関係性と生き方が育まれる 拠点→TERAを逆にした、ARET。**

## ▼機能

<(地域住民が集い)安心できる機能>  
<挑戦者が集い、高まる機能>

<“違い”が反応し創造が生まれ支える事業>  
<人との関わり合う機能>

## ▼取り組み内容

会議、打合せ、お茶飲み会等への空間貸出  
コワーキングスペース空間貸出  
講座・WS、議論、プレゼン・マッチング等のプログラムの提供  
講座・WS、議論、プレゼン・マッチング等のプログラムの提供  
利用者発案プログラム、ARETゼミの提供、みんなで大掃除・食事

## ▼利用者想定

<井上さんと関わりのある方>  
<ユースと関わりのある方(若者: 挑戦者、社会人: 支援者)>  
<自身に社会的挑戦のアイデアがありながら一歩踏み出せずにいる層(講座・ワークショップ受講しながらも自分で“やる”と思えないでいる層)→“やる”人が近くにいることで、“自分もやる”化 >  
<持続的な活動にしていくなぎ意志のある市民活動者→キーマンに出会う、新たな知識・刺激と出会う>

## ▼とちぎユースサポーターズネットワーク意図

- 挑戦する若者たちを育む機能をプログラムから日常的関わりができるようにしたい。日常的に新たな挑戦者が出会い、支えられる機能をプログラムではなく、エリア・日常として展開したい。
- 育んだ卒業生(起業家等)の現場や拠点/空間をつなぐ機能が弱い現状から、我々も地域に関わり住民の声、理解と期待を受けながら、卒業生に現場を提供・コーディネートしていきたい。(よそ者チャレンジャーと住民が関わり合う地域の玄関的機能、地域に人材定着機能)
- 若者による地域活性化、課題解決をミッションにしているが、事業成果が見えづらく、我々が実際に地域に関わることで、地域の変革事例をつくりあげたい。
- エリアに来ることで、挑戦意欲やいい出会いがあり、このエリアで暮らしたい、暮らす選択が起きるエリアの形成をしたい。

## ▼打ち出すコンセプト案 (わかりやすく、イメージしやすい)

・1年間議論をしながら、設定。  
仮コンセプトとして、新たなもの物語を始める場所? 精神と時の部屋? ソーシャルイノベーション育成拠点?

## ▼利用者に提供する価値

⇒安心、新たな出会い・関係性、自己肯定感  
⇒刺激、肯定感、仲間、資源、情報  
⇒アイデア、疑問、実践資源、  
⇒発見、肯定感、刺激、仲間、出会い

## ▼Aretオペレーション想定

<ユース日常業務>プログラム開発、運営  
<ユース会員サービス>YOUTH TIME、  
<Aret利用者フォロー>入室管理、Aret空間予約管理、情報提供  
<日常的清掃>掃除機、ゴミ出し、  
<>

<1. 趣旨・概要> 2012年に始まったIDEA→NEXTは、「とちぎの新しい物語をつむぐ。」をコンセプトにし、ヒトとマチがイキイキとした地域を創るため、社会に新しい価値を提供する意志を持った若者を数多く輩出し、地域の困りごとの解決や社会をよくする活動を促進するアイデアの実現のために、若者が県内の地域活動実践者や経営者、同じ志を持つ若者同士や、オーテニス(最後の公開審査会における一般観覧者)とつながる場です。またつながりによって、アイデアを持った若者がさらに自身のプロジェクトを加速させ、さらなる成長を生む機会にもなっています。

<2. 現状> 開始後7年目を迎え、iDEANEXTから事業として継続する事業家が生まれ、また卒業生が次世代の挑戦者を支える生態系として機能し始めている。しかしながら、エントリーから持続的事业に取り組む事業家には、以前障壁があり、目指しながらも終了後の活動継続率0%になっていない(2016年度40%(4/10)、2017年度25%(2/8)、2018年度は60%(3/5))。これらから継続して取り組む者は、エントリー段階から、現場、現物がありと、実現したい景色と事業実施する覚悟が高い傾向がある。合わせてそこに行くまでに自身が様々な機会、出会いを有していることを大きい。なお2017年度より一次審査を設け、通過者に実践的仮説検証を取り入れたプログラム転換は、継続的取り組みにプラスの影響があったと捉えている。とはいえIDEA→NEXTの原点は、アイデアを持った若者の行動を実践化させる入り口でもあることを踏まえ、入り口は広げつつ、出口も高めることの両立を図っていききたい。

<3. 課題> ①修了後の継続的取り組みにおいては、プログラム効果以上に自身のモチベーションの高低による影響が大きい。これまでのプログラムスキームでは時間が足りない。  
 ②当会で実施する(業務委託含む)プログラムとエントリー者の連動が図られていない。  
 ③本事業を安定実施するためには、現行でも50万の事業費が必要であるが、寄付・協賛金等による支援金額は不足してお(2017年98万)、また進行中業務と並行して行うために、資金調達に関わるスタッフの優先順位が上がりきらず時間的にもかけられていない。

<4. スキーム改善ポイント>

更に、アイデアからのアクション率と継続率を高めていくスタートアッププログラムにしてため、以下の点を修正し実施していく。

- ①半年から年間を通じたプログラムへ(12月エントリー×切を8月×切)エントリーを早め、1st stage「アイデアブラッシュアップ」と2nd stage「実践的仮説検証」に分けて実施する。なお2nd stageの入り口として、1次審査を設ける。
- ②既存のプログラムと連動させ、多角的に自身のアイデアを見つめ直し磨かれる機会を広く数多く提供する。
- ③年間通じたファンレイジングの実施。現行より倍の時間がかかることから事業費を年間100万円と設定し、年間を通じ出会う人に当会理解と合わせて支援を募る、支援を募っていく。

<5. 改善によって生み出したい成果>

- ①修了後、継続して課題解決に取り組む事業家の輩出数の増加
- ②アイデアを持つ若者のエントリー数の増加
- ③支援者・協力者の増加

**ビジョン「挑戦が生まれ、育まれる循環する生態系をつくる。」の具現化**



# 2021年度の組織運営計画について —NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク—

「若者の力を活かして地域の課題解決/活性化を加速する」ミッションの達成を図る為、2010年度の組織運営に係る基本方針の実行検証を行い、2021年度の基本方針に活かしていく。

## 1. 前年度(2019年度)の基本方針の実行検証と総括

### (1)現在取り巻く外部環境の認識について

①**従来の社会システムや価値観の転換のために、新しいアプローチの創出に挑む人材を育み、可視化していく仕掛けの加速が必要である。**

「人口減少の進行」、「超少子高齢化による偏る人口バランス」、「国家財政のひっ迫」等の状況は好転せず、不透明な未来に対して不安がある。特に若者においては特に顕著である。彼らは不安を感じないように、未来を考えず「今」だけを見て、「挑戦」よりも「平穩」を選択しやすい傾向がある。次世代の若者が「希望」に思えるように、同世代が未来に対して主体的かつ挑戦的な行動していくその土壌と支援が必要である。また彼らの行動、成果を可視化していく必要がある。また、「SDGs」など、世界規模で持続可能な社会に向けて行動が求められている。またSDGsには、現在の延長線ではなく、バックキャストिंग（未来を設定して、そのために革新的に行動する）が求められている。

②**「地域」と「若者」をコーディネートできる人材が不足している。**

民間(企業)、行政、大学等の教育機関、等、若者との関わりや支援機会の提供などの多くの相談を頂いている背景には、社会的にも若者の力を期待し、必要としている組織・現場に当会の取り組みの認知が広がっていると考えられる。また新しい力を必要としている組織と若者が具体的な接触機会が少ないことも要因と考えられる。若者にとっての情報の価値は、情報の質や内容だけでなく、発信者と自身の関係性があるかが影響する。そうした若者の特徴を踏まえたコミュニケーションをとり、地域に関わる人達の期待や必要性を繋ぎ、参画を提案し、価値を創出するコーディネートを担う機関、また人材の少なさも課題である。

③**持続可能性のある新しい価値観、暮らし方が浸透してきた。**

「求人不足」「働き方改革」「SDGs」「地方創生」など、持続的社会への「暮らし方」の再定義が求められている。従来の社会システムからの転換が求められていることに加え、新しい価値観やライフスタイル、つまり、より健康的かつ持続可能性が高いかが人にも、社会にも、地球にも重要になっていると捉えている。従来の延長線ではなく、これからの大きなあるべき姿を見据えた行動や支援が求められている。

当会のミッション、またこれまでの取り組みと上記の外部環境を踏まえ、以下の通り、課題と課題に立ち向かう基本方針と重点事業を定める。

### (2)【基本方針2019】

**「地域」×「若者」を体現する現場性あるコーディネート事業を高める新たなスキームづくりと組織の基盤安定化**

### (3)取り組むべき課題

①大きなあるべき社会像を捉えた「事業(支援)スキームの見直し」、「プログラムの深化・連動」、「より一層の挑戦人材の育成と現場へのコーディネート強化」

②「地域」×「若者」をコーディネートできる機関、人材の育成

③未来を見据えた人材の確保・育成等事務局体制の整備と会員・支援者との関わりの見直し

### (4)重点事業

①地域拠点を踏まえた、新たな事業スキームを検証していく。

⇒地域拠点aretに挑戦する若者と地域課題の声が集まり、挑戦者が課題現場に入り現場の景色を変えていくコーディネートに注力する事業スキームを描いた。iDEANEXT卒業生がaretに集うようになったり、aretオーナーの光琳寺と連携した取り組みが始まる動きが起きた。他のプログラムとも連動し挑戦者や相談者が増えたりと挑戦者へは地域拠点aretの認知が高まった。しかしながら、課題を抱えている人の掘り起こしや認知向上については、打ち手に欠いた。新たな事業スキームを描きながらも、これまでの事業スキームの運用の比重も大きく、並行で行う難しさを感じた。

②「iDEA→NEXT」を中心事業に据えて、他のプログラムとの連動性を高め、質の高い支援を提供し、修了後の継続的实践者を増やす

⇒エントリー者が13名(昨年度6名)と大幅に伸びた。各プログラムを入り口にして連動できたことと、プログラムを長期化することに、アイデアのはじめ想いはあるけど、仮説はない層を取り込めるようになったが要因と考える。しかしながら、コロナウイルスの影響もあり13組のうち5組が辞退している。長期化によるプログラムの間延び感もあり、アイデアの始まり層を支えることの難しさや意義を今一度問直しターゲットの設定と支援プログラムの見直しが必要である。

③当会のコーディネートノウハウの他地域展開(ハンズオン)支援とネットワークの形成の準備を行う。

⇒地域コーディネーターの養成講座(下野市)等での開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により実施ができなかった。ハンズオン支援まではできなかったが、台風19号の被害対応により県内各地の地域×若者をコーディネートできる団体と協働実施する等ネットワークを活かす動きはできた。

④組織運営の観点では、次期の中心を担う20代職員採用と働きやすい雇用環境づくりを行う。なおより信用を高め、NPO業界のモデルとなるようコンプライアンスの遵守においても力を入れていく。合わせてYOUTH TIMEの位置づけを踏まえ、会員・支援者との関わりを見直し、具体的な改善を行う。

⇒新たな職員と大学生のインターン生が加わりスタッフの若返りが図られた。またこれまで同様フレックスでの勤務体制に加え、事務所にいなくても仕事ができるようにクラウドでのデータ共有化やslackを活用した社内コミュニケーションなどに着手した。YOUTHTIMEの見直し、会員に制限することなく当会に関わる方(利用者、応援者、事業連携者・協力者など)との新年会などを実施し、それぞれの関わり合いを広げることができた。

### (5)2019年度の実施報告 詳細は別紙

	2019年度	対前年比	2018年度	対前年比	累計 (2010~)
提供者数(人)	5,571	+535	5,036	-1,559	28,619
協力者数(人)	426	+184	242	-138	3081
活動時間(H)	19,977.5	+7,106.5	12,871	-4777	101,930

### (6)2019年度実施において見えてきた新たな課題

新型コロナの影響により、直接的な関わり合いが自粛される中、これまでのプログラム開発や運営方法では、実施ができないなどの影響を受けた。リスクを踏まえたうえで、直接的に関わり合う価値、またプログラムでの提供すべき価値を改めて再定義する必要がある。

また2019年度計画で打ち出した地域拠点運営からの若者×地域展開の新たな事業スキームの実現と、県内各地の地域×若者を巻き込むプログラムを集約し、若者に届ける地域情報プラットフォーム(地域メディア)の

### 【総括】「プログラム開発運営モデル」から「地域拠点aretを据えた挑戦する若者の地域展開」への必要がある。

提供者数また決算共に微増となった2019年度。新たな若いスタッフの合流によりプログラムのコーディネートや管理運営業務も分厚く実施することができた。また地域拠点aretへの移転がプログラムを事務所併設した環境下で実施できるようになり、移動や準備等の工数軽減の他、参加者と拠点の関係性が積みあげていくことができ、プログラムの効果や連動、参加者の定着がしやすくなった。また上記にもあるように当会に関わりある若者を含め、挑戦者意欲ある若者への認知の拡大を図ってきた。次年度については引き続きより一層の挑戦人材への認知拡大しながら、若者の力を必要としている声を集約し、若者の活躍機会となるプログラムを開発し、エリアに密着した形で実施していくことが求められる。若者が力をつけただけでなく、その成果として、地域社会に一人でも多くの笑顔を増やしていく貢献を成果とできるように、事業支援を踏まえた地域コーディネート業務の質の向上も目指すべきところである。その他、県内各地において、地域の魅力や課題に「関わりしろ」を持たせたプログラムを開発運営できるコーディネーターが広がりを予兆を感じている。その際、各地の地域コーディネーターの質の向上と、地域コーディネーターが繋がっていない層を届けていく役割が生まれる。そうした県内地域コーディネーターとも有効性のあるネットワークを構築しながら、当会として県内の教育機関・行政、そして若者との関わりが広がっている強み活かし、県内各地に若者の力を届けていける体制や仕組みの整備も必要である。

一方で、コロナウイルスの影響により交流の自粛など、これまでの関わり合いを前提としたプログラム開発運営モデルの危うさも感じた年であった。人と人が「関わり合う価値」の再定義と発信、同時に、安定

## (5)重点事業(2020～2022)

①コロナ禍の影響を踏まえ、これからの若者が求める社会像や機会、価値観を丁寧に紡ぎ、広く社会に発信しながら、中期計画の策定を行う(A)。またそれらの未来像に即した、必要な人物像の設定と育む力の要素設定し必要な新たな支援プログラム開発を行う(B)。また声を聞くだけでなく若者同士がこれからの未来や社会を議論していく場づくりを積極的に行っていく(C)。

→A:当会の学生インターンシップ生と20代スタッフを中心に、学生100人に「できたらいいな栃木像インタビュー」を行い、求める社会像と価値観を記事にしていく(2020年度内60人、2021年度内40人)。またそれらのヒアリング内容をもとに、理事、スタッフ、会員と中期計画(2025年に達成することとそのプロセスアクション・スケジュール)を設定する。

B:依然プログラム開発依頼がある状況の中で、若者が求めるこれからの社会の姿を構成していく人物像を定め、要素となる力を育むプログラムを策定していく。

C:これまで会員交流会の位置づけであった「YOUTH TIME」を、会員制限を設けず、学生が未来を思考し・議論し、仲間が広がっていく位置づけに展開すると同時に、会員にも参画いただき、学生と会員とが世代を超えて、未来を描き、新たな仕掛けを生み出し加速させるネットワークを育む事業とする。なお、学生100人インタビューでヒアリングした学生を積極的にこの場に展開していく。

## ②社会環境に適したユース事業(「地域×若者コーディネート」に加えて「情報プラットフォーム」、「地域拠点運営とエリアマネジメント」の実行と連動)の再構築

→①の若者が求める社会像・価値観の確認と同時並行であるが、これまでの「新しい力を必要とし変化したい組織・現場」と「挑戦意欲のある若者」のコーディネート(プログラム開発運営)は引き続き実施していくものの、新たにより多くの若者が地域づくりへの関心・意欲を高め、参画機会が広がるように、アイデアネクスト卒業生たちのプログラムや地元中小企業や行政から学生への案内したいものを集約し、栃木県内の高校生・大学生に届けることができる情報プラットフォーム(地域メディア)の創設に取り組む。また、若者の力をリアルコミュニティに展開できるように空き家に挑戦者が入居し活動拠点できるようなエリアマネジメント事業にも着手する。

(6)2020年度実施事業(①事業名、②事業内容、③実施頻度、④実施場所、⑤対象者・提供者数、⑥予算(収入) ⑦事業パートナー)

### (5)-①に適応した事業

【新規/自主】①学生100人インタビュー ②学生のこれからの望む社会の姿をヒアリングし、これからのあるべき社会の姿を紡ぐ。③通年 ④栃木県内 ⑤栃木県内の大学生60名 ⑥100千円 ⑦—

【新規/自主】①中期ビジョン計画(アジェンダ2025)の策定 ②学生ヒアリングをもとに、これからの若者が望む社会と当会のミッションを掛け合わせてビジョンの策定と2025年までのアクションとプロセス、スケジュールを策定 ③年3回 ④栃木県内 ⑤理事、会員、スタッフ ⑥100千円、⑦—

【継続/自主】①YOUTH TIME、②学生×地域の未来議論 ③隔月/年6回、④aret ⑤60名 ⑥100千円 ⑦—

【新規/自主】①コロナ被害の若者支援緊急対応 ②アンケートに実施と必要な支援プログラムと仕組みの開発 ③通年 ④県内大学生 ⑤1000名 ⑥500千円 ⑦—

### (5)-②に適応した事業

【継続/自主】①ソーシャルグッドスタートアッププログラム「iDEA→NEXT」②伴走支援、ブラッシュアップ合宿ファイナルプレゼンテーション ③通年 ④栃木県内 ⑤社会をよくするアイデアを実施したい若者6組 ⑥1080千円 ⑦協賛企業等

【継続/自主】①実践型インターンシップ「GENBA CHALLENGE」②若者の力を取り入れて組織変革の加速 ③通年 ④企業4社 ⑤受入企業等 企業2社 大学生2名 ⑥500千円

【新規/委託】①仕事と子育てでインターン ②就業体験と就業後の子育てを体験し、広く社会に発信するインターンシップ ③7月～3月 ④宇都宮市内 ⑥市内企業3社 大学生6名 ⑥2000千円 ⑦宇都宮市男女共同参画課

【新規/自主】①地域拠点の活用・運営 ②aret(仮)の運営による日常的挑戦者支援 ③通年 ④ARET(宇都宮市西地区) ⑤200名 ⑥800千円 ⑦光琳寺

【継続/自主】①情報発信 ②WEBサイト、SNS(FACEBOOK, Twitter, LINE@)の管理運営 ③通年 ④事務所 ⑤— ⑥300千円 ⑦—

【新規・自主】①地域×若者情報プラットフォーム構築 ②開発プログラム他、関係機関・団体の若者を巻き

### ③各地の「地域プログラム」への参加者のコーディネートと「地域コーディネーター」との連携検討(連携効果予測、連携の具体的方法)

→②の新たな事業スキーム開発のうち「地域メディア事業」の機能化により、各地の地域参画プログラムを多くの学生の届き、県内の人材の還流を起こしていく。また各地の仕掛け人(コーディネーター)と定期的な意見交換や研修の場をつくり、それぞれの独立性を保ちながら、相互に提案・相談・協業できる関係性を構築していく。

### ④若者の社会参加しやすい仕組・み仕掛けの検討

→経済的な生活基盤がぜい弱な大学生がより地域づくりや社会貢献活動に参画できるように、支援金の創設・運用・充実や、学生の参画をボランティアから仕事化できるような実績作りと各関係機関への提案を行っていく。まずは、当会のインターンシップ生に対して活動支援金の提供を始める。

### ⑤地域拠点を基軸にしたエリアマネジメント、コーディネートの実施

→「宇都宮空き家会議」や「創業プロデュース事業」、「自治会インターン」等の事業パートナーと取り組む委託事業をきっかけにして、「地域連帯経済圏」(地域住民のつながりを大事にしながら、地域社会により経済活動もする暮らしエリア)のモデルづくりとエリアマネジメントができるコーディネートノウハウの蓄積を行う。

### ⑥社内の若手スタッフの人材育成、ガバナンスと組織基盤の再構築

→スタッフ間の意見交換やそれぞれの課題や悩みをどこでもいつでも共有・反応できるように、オンラインでの連絡ツール「slack」を積極的活用していくこととスタッフ会議や研修の充実、またスタッフ個々の関係性をより強固なものにしていくために雑談等のコミュニケーションを積極的にとれる環境を整えていく。

またガバナンスの強化については、「理事会」には位置づけないが当会の理事、スタッフ、会員がともに未来に対する視点や期待を共有していく協議の場を積極的に作り出していく。YOUTH TIMEは学生を中心に据えた場に対し、「Supportes Bar」(仮)等支援者の未来像会議を行っていく。

→全体として、事業推進の重点を業務委託の執行から、これからの若者・社会を中心に据えたビジョンの打ち出し、議論、具現化の実践を行っていく。

(5)-③に適応した事業

【継続/委託】①下野市関係人口創出事業 ②地域コーディネーターの育成および中間支援組織の立ち上げ ③通年(6月～)④下野市・東京圏 ⑤50名 ⑥予算(収入)3400千円 ⑦下野市

【新規/委託】①下野市公共施設公民連携推進事業 ②公民連携事業 ③通年(6月～) ④下野市 ⑤100名 ⑥5400千円 ⑦下野市

【継続/自主】①UIJターン事業「はじまりのローカル コンパス」②関係人口創出と地域コーディネーター育成、③通年(6月～) ④栃木県・首都圏 ⑤30名 ⑥1200千円 ⑦—

【継続/委託】①Jimoto tochigi ②東京圏在住栃木出身者コミュニティづくり、③8月/2月 ④栃木県・首都圏 ⑤100名 ⑥3790千円 ⑦県地域振興課

【継続/委託】①地域づくり担い手育成事業 ②地域づくり人材育成 ③通年 ④栃木県 ⑤300名 ⑥3980千円 ⑦栃木県地域振興課

(5)-④に適応した事業

【継続/自主】①ホンdeチャレンジ ②読まなくなった古本を寄付して若者を育む仕組 ③通年 ④全国 ⑤40名 ⑥100千円 ⑦バリューブックス

(5)-⑤に適応した事業

【継続/委託】①創業プロデューサー事業 ②起業希望者が集うエリアづくりと創業伴走支援 ③通年 ④栃木県内 ⑤起業志向の若者 100名 ⑥3521千円 ⑦栃木県経営支援課

【新規/委託】①自治会インターン ②モデルとなる3自治会が受入れ先となり、自治会の組織変革、新規加入促進に取り組むインターン ③6月～3月 ④宇都宮市内 ⑤市内自治会3社 ⑥大学生6名 ⑦990千円 ⑦宇都宮市みんなでまちづくり課

(5)-⑥に適応した事業

【新規/自主】① Supporters Bar ②支援者とスタッフによるこれからの社会の在り方の議論・交流会 ③年3回 ④aret ⑤60名(20名×3回) ⑥100千円 ⑦—